

教育目標

- 自ら学ぶ生徒
- 自他を思いやる生徒
- 健康でたくましい生徒

学校だより

ひらく



第30号

平成28年 2月16日発行
須賀川市立第三中学校
TEL 73-2377
発行責任者：校長 高崎則行

新入生保護者説明会

9年間の連続性で子どもたちを育てます

2月4日(木)、新入生保護者説明会を開催しました。現時点で、平成28年度の新入生は、男子61名、女子49名で合計110名となっており、そのほとんどの保護者の方にご参加いただきました。

校長あいさつでは、小学5年生頃から始まる発達の変化を踏まえて、9年間の教育成果の積み重ねを大切にしたい須賀川三小・三中の小中一貫教育の考え方を説明した後、保護者の皆さんへのお願いと新入生に期待することなどを述べました。また、中学校の学習の生活について、教頭からきまりや留意事項について説明をしました。

その後、須賀川市教育委員会の子育て支援事業により、「思春期の親の役割」というテーマで須賀川市生涯学習インストラクター 角田勝江先生による家庭教育学級を開催しました。角田先生ご自身が「身を削ってお話した」という実体験を交えたお話に皆さん真剣にメモを取って聞いていました。

なにぶん時間の制約の中で実施しましたので、学校からの説明が短かったと感じた方もいらしたようです。皆さんとのコミュニケーションを大切にしてまいりたいと切に願っております。不明な点は遠慮なくお尋ねいただきたいと思っております。また、学校だより等も学校ホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

(今回は、本紙を須賀川三小の6年生にも配付いたします。)

授業参観に大勢の参加、ありがとうございました

2月10日(水)に開催した授業参観には、お忙しい中にもかかわらず約220名の保護者の方に来校いただきました。教室にお入りいただけなかった方もいらして大変申し訳なく感じております。3人の学年主任が、その後の学年懇談会にも多数ご参加いただいたことを本当に喜んでおり、私としても感謝の気持ちでいっぱいです。(時間がすり合わず、2学年の学年懇談会にしかご挨拶に行けませんでした。心よりお詫び申し上げます。)



なお、同日に行いました給食試食会には21名のご参加をいただき、栄養技師に熱心なご質問をいただきました。事後のアンケートの記載から、給食担当者が食の安全に細心の注意を払っていること、大きな袋に入れて出汁からとって、よりおいしい給食の提供に心を砕いていることなどにもご理解いただいたことがわかり、給食関係者一同心から喜んでおります。生徒から直接反応を聞くこともうれしいことですが、保護者の方からお聞かせいただくことも大変やりがいを感じます。

保護者の方から「子どもが今日の給食がおいしかったから家でも作ってと言われた。」という声があれば、レシピを提供いたしますので、そのような声もお聞かせください。

やる気のスイッチ

新入生保護者対象の家庭教育学級後のアンケートに「どうしたらやる気が起きるのか?」という記述がありました。

「やる気」には二つあると思います。一つは「志」(希望や目標)を立てたときの熱のこもった「やる気」、もう一つは日常、やるべきことをやるときの「やる気」。この場合は、二つめの「やる気」。つまり、「宿題やったの?」「片付けなさい」と言われてもなかなかやろうとしない、ということなのかなと受け止めました。

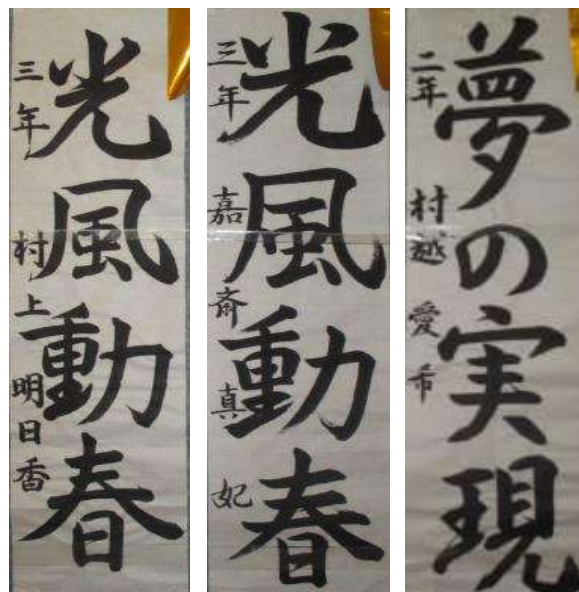
その場合の「やる気」は、ズバリ「習慣形成」がカギです。

「やる気」は脳の「側坐核(そくざかく)」という場所などで作られます。側坐核は刺激を受けないと活動しないので、何もしなければやる気は起きません。つまり、やる気があるから行動に移せるのではなく、行動を始めてから側坐核が刺激を受けてやる気が起きるといのが脳の仕組みです。ですから、勉強に関しても、誰もが机に向かって勉強を始めてからやる気が出てくるのであって、「勉強する時間を決める」「決まった時間になったら机に向かう」「始めたら10分間は中断しない」、こういう習慣が身に付いているかどうかが大変なのだ子どもさんに教えてください。補助的な手段として、時間になったら好きな音楽を聴きながら机に向かう、英語の教科書の音読など最初にやる勉強を決めておく、簡単だと思ってもできる問題から手を付けるなど、自分で工夫している生徒も少なくありません。今はやりの“ルーティーン”です。

生活習慣が身に付いている子どもは、ルールを意識も高い子どもが多いようです。実は、決まった時間に起きる、同じ時間に家族と朝食を食べるといった幼児期の習慣がルールの意識の芽生えにつながっているらしいのです。長じると、そのルールの意識が習慣を守ろうと働くのでしょう。

一つ目のやる気は、熱を伴ったものですから冷めやすいものでもあります。その希望や目標を実現するために何をすればよいかを考えて、熱が冷めないうちに実行すべきことを生活パターンの中に位置づけ、習慣化できるといいですね。

三中ギャラリー



須賀川市新春書道大会金賞



↑田善賞

「私の宝物」齊藤好花(二年)

→第二十七回田善顕彰版画展

優秀賞

「つくり出す手」永瀬 愛(一年)

